

まちの話題

多久駅に隣接する、まちづくり交流センター“あいぱれっと”で、11月30日からイルミネーションがお目見えし、今年の2月15日まで多久の夜を幻想的に彩っています。

これは、筋原商工連盟や同センターを運営する（一社）たく21が、地域商店街活性化事業を活用して、センター玄関前に高さ7メートルのツリー型のイルミネーションを、多久山笠若衆会が12,000個のLED電球でセンターの外側を飾りつけたものです。

あいぱれっと内では、近隣の有志がクリスマスツリーを設置し、まちづくり協議会や多久ミュージカルカンパニーなどが装飾品を持ち寄り、ツリーなどを美しく飾り付けました。



▲幻想的な気分を楽しめるイルミネーションツリー



◀来館者の心を癒す、あたたかなツリー

また、12月14日からは、多久聖廟周辺をイルミネーションが美しく彩っています。

これは、多久美化クラブが夜の聖廟を美しく彩り、賑わいをつくろうと平成21年から取り組んでいるもので、今年で6回目。LED電球も4万個以上となり、オブジェもグレードアップしてきました。

今回は、高さ5mの昇り龍や「祈りと絆」をテーマにしたオブジェも登場し、イルミネーションを目当てに来た人たちの目を楽しませていました。



◀多久聖廟周辺を幻想的に彩るイルミネーション

幻想的な光の演出で多久を美しく彩ります☆

あ い ぱ れ っ と & 多 久 聖 廟 イ ル ミ ネ ー シ ョ ン

第64回佐賀県美術展覧会の入賞・入選作品が11月27日発表され、最高賞の大賞を植木薫さん（東多久町）が、また写真部門の県知事賞を南島敏浩さん（東多久町）が受賞しました。ふたりは偶然にも小学・中学の同級生。

大賞に輝いた植木さんは、東多久町石原で工房“薫”を営みマグカップや湯飲みなど陶磁器を製作・販売する傍らこれまでさまざまな陶磁器展などに出品し、数々の賞を受賞してきました。

植木さんが作りだす陶磁器は、“白”基調の作品が特徴。今回の大作「流動」も直径63cm・高さ36cmの白地に儂い青の深みのあるグラデーションの模様がほどこされた深鉢で、水の流れを優雅なフォームで表現されていました。「みなさんのおかげで取れた賞。作品は常に渾身の力で作り上げています。がまだまだです」と植木さん。「この受賞は今後の励みになります」と次作への思いを語りました。



▲大賞の植木さん

県知事賞(写真部門)に輝いた南島さんは、小学4年生のときに父親に買ってもらったトイカメラで、写真の魅力に目覚め、今でもデジタルでは出せない色合いや表現を大切にするため、銀塩写真にこだわって写真を撮り続けています。今回の作品「逸る想い」は、海へ駆け抜ける少女の想いをモノクロ



▲愛用のPENTAX MX (1976年製)と南島さん

写真で表現。「受賞は『私でもいいんでしょうか?』というのが正直な気持ちです。これからも想像させる写真を撮っていきます」と今後の撮影への思いを話されました。

磁器と写真で多久市のアーティストが称賛!

県展

植木薫さんが大賞

南島敏浩さんが県知事賞

(写真部門)を受賞

12/1 Mon.

多久ライオンズクラブ国際青少年交流事業



国際青少年交流を目的に、佐賀、福岡、長崎のライオンズクラブ会員による来日学生受け入れ事業の一環として、多久ライオンズクラブ（武富勝義会長）で、11月30日から12月14日までチン・リーミンさん（マレーシア）を迎え入れました。1日にチンさんと武富会長らが、横尾俊彦市長を表敬訪問。チンさんは「よい思い出作りをしたいです」と笑顔で語りました。

来日中は、市内のライオンズクラブ会員宅にホームステイを行い、市内はじめ県内の観光名所の見学や市内保育園・小中一貫校、高校などの訪問をし、交流を深めました。

12/1 Mon. ~ 12/5 Fri.

火の用心！お宅は大丈夫ですか？



佐賀広域消防局多久消防署と多久市消防団女性部が、多久市内の80歳以上の一人暮らしのお宅、約70軒を訪問し、火の元の確認や火災警報器の設置など、火災予防の注意喚起を行いました。

特に12月からは暖房器具の使用など、火災の要因が増えることや仏壇のロウソク、線香の始末など、火災予防のポイントを丁寧に説明。慌ただしい師走を無事に過ごし、新年を笑顔で迎えてもらえるよう声をかけていました。

また、同行した女性消防団員が、手作りの啓発グッズとチラシで火の用心を呼びかけました。